

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スポーツとまなびのひろばSAIYO鴻池校		
○保護者評価実施期間	2016年1月 5日 ～ 2026年 1月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	2016年1月 5日 ～ 2026年 1月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	固定化されたプログラムではなく、子ども達が楽しみを感じまた成長に繋がるプログラムを提供できている。 その結果子どもが楽しく通所してくれており、保護者様からも満足の声を多くいただけている事	研修やスタッフ会議で新しいプログラム（支援）を考えブラッシュアップしている点	成功事例の共有や発達視点の基づいた療育を考え提供できる取り組みを実施していく
2	グループ内の事業所との連携が取れている。 療育内容を共有しあう事で工夫や改善の案が多く見つかり、より質の高い療育が提供できていること	WEBミーティングによって集まりやすい環境と、その中で療育についての情報共有ができる、相談できる関係がある事。	スタッフのやりがい＝子どもの成長を感じる事になれるよう、スタッフの成長の機会を作っていきたい
3	アセスメント・支援計画・療育・スタッフの対応に一貫性があること	子どものために、職員みんなで支え合い、話し合いながら支援をつくる。 子どもを真ん中にしたチームの力を活かした支援体制が作っている	日々の成長を考え、子どもの自立に向けた支援体制を築いていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流を望む声もあり機会が少ないと感じている事	夏祭りや療育参観日などの機会を交流の機会として保護者様にもお伝えする事で昨年度より改善が見られた	保護者様のニーズをくみ取り、保護者様が気軽に施設に来所できるように取り組みを実施していく
2	若い職員が多い事で保護者対応などや緊急時対応などの経験不足が生じるリスクがある	熱心に子どもの支援にあたってくれているが、保護者への信頼や緊急時の判断などにブレが生じるリスクが課題	管理者への報連相を徹底し、迅速かつ組織的に対応します。 役割を明確にして責任ある行動を行い、子どもを中心としたチーム支援を実践します。 若い職員の強みを活かしながら、研修やケース検討を通じて育成を進め、専門性の向上を図ります。
3	トライアングルプロジェクトとして、学校・家庭・放デイがさらに連携を取れる事業所運営	相談員との連携から学校や家庭とデイサービスが連携できる支援者会議の開催頻度が少ない事、情報の共有頻度を高める体制が課題	保護者ニーズをくみ取り積極的に学校に出向き支援の方向性の確認を行っていく。 面談時にニーズを拾い、相談員との連携を図る